

障害者支援職員のための基本研修プログラムの開発

-インターネット環境を利用した自己学習型プログラム-

(指導教員 世木 秀明 准教授)

世木研究室 0531131 福田 美紀

1.はじめに

平成18年4月に施行された障害者自立支援法をはじめ、障害者支援に対する法律・制度の整備により、支援対象となる障害の種類・程度が複雑になってきている。特に、障害者自立支援法では、対象となる障害が統合され、障害者は障害の種類に関わらず共通のサービスが利用可能となった。その結果、求められる支援も大きく変化してきている。

また、法律・制度の変化は、障害者支援職員の雇用形態にも影響を与え、職場に占める非正規雇用者(パート)職員の割合は年々増加しており、支援技術や支援方法の質の向上が期待されている。

しかし、福祉現場では、資金面などの問題から非正規雇用者職員に対して十分な研修を行えておらず、現場に就く前に障害者支援に関する知識や支援方法、技術を身につけていない場合がある。

このような背景をふまえ、本研究ではインターネット環境を利用し、障害者支援職員を対象とした自己学習型の基本研修プログラムの開発を目的とした。

2.基本研修プログラムのシステム構成

本研究で開発した基本研修プログラムのシステム構成を図1に示す。研修者は、インターネット経由で研修用サーバに接続し、研修を行う。研修管理者は、研修用サーバに保存された研修結果データベースを参照することで研修者の研修状況を把握し、今後の研修指導に役立てることができる。

基本研修および、研修結果参照プログラムの開発には、Flash MX、ActionScript および、PHPを使用した。また、データベースにはMySQLを使用した。

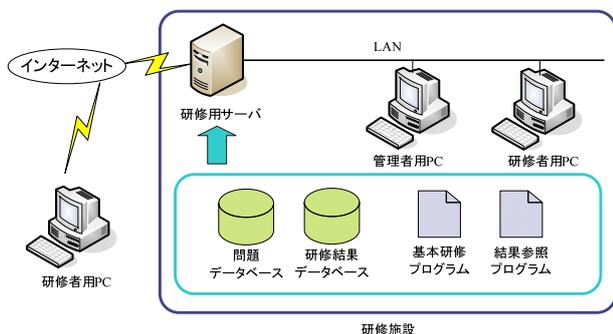


図1 基本研修プログラムのシステム構成

3.基本研修プログラムの概要

基本研修プログラムは、学習問題とテスト問題で構成されている。研修者は障害者支援のための基礎的知識を学ぶ学習問題と、学習成果を評価するためのテスト問題を交互に行いながら学習を進める。研修者が行う学習内容は、テスト問題の成績が

あらかじめ設定されたレベルに達すると、上位レベルの学習内容に移行していく。

学習の進め方は、初回学習時のみ、初級・中級・上級レベルすべてを含む問題を使用してレベル分けテストを行い、研修者の能力に合ったレベルから学習を開始する。

ここで、学習問題には、必須問題と再学習問題の2種類がある。学習問題の進め方は、図2に示すように必須問題に正答すると次の必須問題に進む。誤答の場合は画面に模範解答を表示した後、最高4回の再学習問題を行う。研修者が行ったすべての学習結果は、研修結果データベースに保存される。

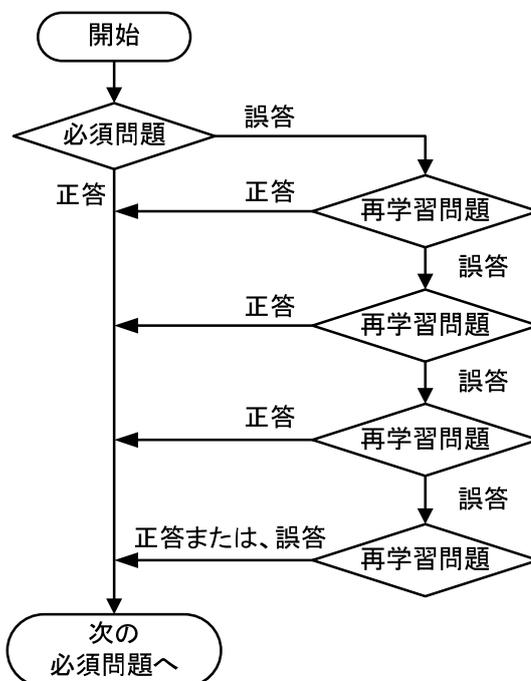


図2 学習問題の進め方

4.まとめ

本研究で開発した基本研修プログラムを障害者支援職員を養成する専門家に試用してもらったところ、次のような意見を頂いた。

- 研修者の能力に合わせた研修が可能である。
- インターネット環境を利用することで、好きな時間・どこからでも研修を行うことができる。
- 管理者は、研修用サーバにアクセスするだけで研修者の研修状況を把握することができる。

これらのことから、本研究で開発した自己学習型基本研修プログラムは、障害者支援職員の自己研修に有効であると考えられる。